

# スポーツボランティア プログラム

## 「事後学習」

報告

2017/02/16



## スポーツボランティアプログラム「事後学習」

2月16日（金）、南大沢キャンパスにて、スポーツボランティアプログラムの「事後学習」を実施しました。スポーツボランティアプログラムの活動は、まだ「東京マラソン2018」の活動が残っていますが、この事後学習では、これまでの活動を振り返り、他のメンバーと共有することで、自分自身の想いと向き合ったり、多角的な視点からボランティア活動の効果と意義を考えることで、活動を学びと成長につなげることを目的に行いました。連携団体である東京都障害者スポーツ協会や日野市社会福祉協議会日野市ボランティア・センターの方にもお越しいただき、共に振り返りを行いました。

### ・「ココロ（キモチ）」の振り返り

最初は、「ココロ（キモチ）」の振り返りとして、感情面の振り返りを行いました。活動の中で、「最も感情が動いた場面」をまずは各自で考え、その後、グループで共有しました。「最も感情が動いた場面」として、「知的障がいのある方と接して、初めは緊張したが、一生懸命に競技する姿から元気をもらい、自分も楽しめた」「コミュニケーションのとり方で不安があったが、言葉ではなく競技を通して感じる事ができたこともあった」「障がいのある方を支える方の困難等も知ることができた」などの場面が挙げられました。また、2年目のサポーターからは、「昨年、関わった方が覚えていてくださり、声をかけていただき嬉しかった」という意見があり、継続して活動しているからこそその喜びがあったようです。活動を振り返り、接し方等で戸惑った感情や、その中から感じたやりがいや喜びなど、ポジティブな感情もネガティブな感情も両方の観点から、自分自身の気持ちと向き合うことができました。

### ・「アタマ」の振り返り

次に、「アタマ」の振り返りとして、今回取り組んだボランティア活動の効果・意義について各自で考え、その後、グループで共有しました。そして、そこで挙げられた効果・意義を①ボランティア自身、②課題の当事者・活動の対象、③活動する組織、④地域・社会、といった対象別に分けて可視化しました。

#### <①ボランティア自身にとって>

- ・ 障がいのある人と関わりをもつことができ、「障がい」という考えが少し変わった
- ・ 障がいがある人へのサポート面を学ぶことがで

きる

- ・ 大会運営に関わることで、支える側について学ぶことができる
- ・ 能動的に行動することができ、コミュニケーション能力が向上したり責任感が身についた
- ・ 皆一人ひとり考えが違うことを実感でき、自分を見つめ直すきっかけになった
- ・ ボランティアとは何かを考えるきっかけになった
- <②活動の対象（競技者・選手・参加者）にとって>
- ・ 大会等が成り立つ
- ・ 参加者が楽しんでくれた
- ・ 普段とは違う人と関わることができる
- ・ 楽しみを共有することができる
- ・ 参加者のケガや体調不良の未然防止や早期発見ができる
- ・ 障がいへの理解や知識をもつ人が増える
- <③活動する組織（連携団体や首都大）にとって>
- ・ マンパワーとして貢献することができ、円滑な大会運営の一助となる
- ・ 職員だけでは足りない部分でのサポートができる
- ・ 見る目が増えることで、参加者の安心・安全につながる
- ・ 参加者の満足度UPにつながる
- ・ 団体で参加することで、ある程度統制がとれた団体として受け入れられる
- ・ 大学として参加していることで首都大のPRになる
- ・ 仕事をしている者では気がつかない視点が得られる
- ・ 障がいの理解を広く促すことができる
- <④地域・社会にとって>
- ・ 参加者が増えることにより大会の知名度がUPし、さらに参加者が増える
- ・ 障がいのある人の存在を意識する場となり、理解の促進となる
- ・ 学生が地域とのHUBの役割になり、地域交流が活性化される
- ・ ニーズを理解し、社会貢献の手段を身につけることで、地域の他の場面でも実践できる

### ・参加学生の声

- 「事後学習」全体を通して、参加した学生からは、下記のような感想が聞かれました。
- ・ 自分の経験を振り返って改めて考えたり、言葉にし、他者の意見を聞くことで、より具体的に考えることができ、新しい発見があった。ボランティアへの姿勢を変えていこうと思った
  - ・ 個人で考えたときは、当事者にとっての意義をたくさん思いついたが、意見交換をするうちに、自分自身のためや運営組織のためなど、多くの意義に気づくことができた
  - ・ 参加者にとっての意義など、協力団体の方から私たちでは考えつけない意見を聞くことができ、様々な視点に気づくことができた
  - ・ 良い面と同時に、課題についても考えることができて良かった
- また、活動前後のボランティアに対するイメージの変化について、下記のような意見が出されました。
- ・ ボランティアは考えていたよりも気軽にできて、対象者の役に立つというのももちろんだが、自分が得られるものがすごく大きいと分かった
  - ・ ボランティアを何のために行うのかを深く考えるようになった。自分のためだけでなく、他人や社会のために行動を起こすことがボランティアに必要であると考えた

学生たちは、振り返りのプロセスを通して、多角的な視点から、この活動やボランティア活動そのものについても学ぶことができたようです。

今年度の活動は、「東京マラソン2018」を残すのみとなりました。希望者は、2年目は「サポーター」、3年目は「リーダー」として、次年度も継続することができます。どのような形でもいので、それぞれが今回、学んだことをそれぞれのフィールドで活かしてほしいと願っています。

